

DMOの着地型旅行業を支える地域ネットワーク

観光学部3回生 西嶋大喜

インターン先: 一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー

インターンシップの目的

- ①これまでの学びと経験がDMO業務においてどの程度通用するのか、地域観光に関わる・もしくは研究する上で何が求められるのかを明確化する。
- ②DMOがどのようにして地域観光の中核で機能しているのかを学ぶ。

田辺市熊野ツーリズムビューロー(以下TKTB)とは？

2006年に設立された着地型旅行会社。2023年には観光庁の先駆的DMO(Aタイプ)に選定される。田辺市からプロモーション事業委託を受けており、主に観光客の現地対応と情報収集・整理を担っている。特に着地型旅行業務では域内の宿泊業者や飲食業者などと提携し、地域経済の活性化と対応力の向上に貢献。近年は日本人向けの森林学習ツアーなど地域資源を活用した事業も企画・運営している。

主な実習内容

①地域内教育旅行に関するプロジェクト

- ・教育旅行の効果測定方法の初期案作成
- ・顧客との打ち合わせへの参加

②観光センターの案内業務

③各種出張(県内DMO会議や講演など)へのご同行

①地域内教育旅行に関するプロジェクト

観点: 観光を通じてどのように効果的な教育を行うのか、どのような需要があるのか

目的: ツアーの改善のための効果測定方法の提案

方法: 教育効果がどのように最大化されるのかを図式化する

②観光センターの案内業務

観点: 実際に観光客はどのように動いているのか

目的: 観光客の行動パターンの把握

方法: 熊野古道を歩く観光客への旅程提案・説明を観察する、適宜質問をする

③各種出張への同行

観点: DMOは地域外他組織や地域内の利害関係者とどのように関わっているのか

目的: 地域観光の中核としてのDMOを支える他組織等との関係性の図式化

方法: どのような経緯でTKTBと他組織がつながっているのかを観察・質問する

学んだこと

- ・DMOが地域観光の中核で機能するためには、継続的な地域内の事業者や学校とのつながり・信頼関係が重要である。
- ・行政と高度な連携が取られており、これが地域ネットワーク形成を支えている。
- ・世界遺産などブランド力の高い観光資源のプロモーションだけでなく、地域内の産業や歴史を活かした地域性の強い事業も試行されている。
- ・ツアーの企画～改善において、ツアーのコンセプトに応じて様々な社会知識が求められる他、効果測定においてもそれらを前提とした調査方法・分析のフレームワークが求められる。(学術的な知識、調査・分析スキルなどへの需要)
- ・顕在化している需要(教育効果、経済効果など)だけでなく、顧客や協力先との関係性の中で見えてくる潜在的な需要もある。